

ギリシア人の異民族観

ギリシア人をオリエント世界に惹きつけたもの

=金や銀,銅などの鉱物資源

アルミナの魅力 (T. F. R. G. Braun “The Greeks in the near east”, *CAH*.III-III (1982), 12.)

サルディスの魅力

アポッロニデスの例 (*Xen. Anab.* 3. 26; 31.) : ボイオティア訛り

「バルバロイ」と「ヘレネス」の呼称

理解不能な言葉を話す人々を擬音語的に表わす

(G. Walser, *Hellas und Iran*, (Darmstadt 1984), 1.)

ヘカタイオス

異民族を初めて「バルバロイ」と呼ぶ (Braun, 5; Heraclitus, B. 107 D-K)

後にはヘレネス (ギリシア人) と対立する劣等な異民族を意味する (Walser, 1.)

異民族を神話体系の中に取り込んで位置付ける伝統 (Braun, 7.)

何らかの形で交渉を持つに至った諸民族を自分たちの神話伝承の中に位置付ける事によって理解 (Georges, 9.)

適当な候補者を神話伝承の中に用意

ギリシア人の英雄とトロイア方の英雄 (Georges, 16.)

ヘラクレス朝 (Hdt. 1. 7.)

メルムナス朝

ギュゲスをヘラクレスと結び付ける

後1世紀のアポッロドロス:リュディア人の女王オンファレとヘラクレスとの子アゲラオスをクロイソスの祖先と記す (*Apollodorus, Bibliotheca* 2. 7. 8; *ALSS*. n.2.)

リュディア人の王族や貴族とギリシア人と親族関係の存在

エフェソスの僭主ピンダロスの祖父

=リュディア王のアリュアッテス (*Aelian. Varia historia* 3.26.)

クロイソスの異母兄弟パンタレオンの母はイオニアの出身 (Hdt. 1. 92.)

リュディア王の妹の一人はミレトスという名の人物に嫁ぐ

(Nicolaos Damasc. *FGH*. 90 F63.)

ホメロスに登場するリュディア人英雄

マイオニア人の領主,ボロスの子のフェイストス (*Homer. Iliad* 5.43-44.)

肥沃なタルネの出身:タルネ=サルディス

オトリュンテウスの子のイフィティオン (*Homer. Iliad* 20.382-385.)

雪を頂くトゥモロスのふもと,ヒュデの出身

ヒュデ=サルディス

Str. 9.2.20; 13.4.6.; Eustathius, *Commentarii ad Homeri Iliadem*

366.15-20: 「地理学者によればある人々はヒュデとは、かつてキンメリア人に占領されたリュディア人の王都サルデイスそのものというよりはサルデイスのアクロポリスのことであると言っている。彼が言うところによると、トゥモロスは、サルデイスを俯瞰し、頂には地の利に恵まれた、ペルシア人の作品である白大理石でできたエクセドラ（屋根付の歩道）を擁している。」

マイオニア人＝リュディア人（Hdt. 1. 7.）

いずれもギリシア人の名前と呼ばれる→ある種の親密さを反映

いずれもギリシア人の英雄の手にかかって殺されている→民族的優越感

ファイストスはイドメネウスに殺され、イフィティオンはアキレウスに殺されている

ヘラクレイダイ最後の王カンダウレスはミュルシロスと呼ばれる（Hdt. 1. 7.）

マイオニア人

トゥモロス山とギュゲス湖の間に住んでいるとされる（*II.* 2.864-66.）

前7世紀にはリュディア人と同定

（Hanfmann, *AJA.* 52 (1948) 151ff.; C. Roebuck, *Ionian trade and colonization*, (Chicago1984) 52.）

住民は戦車に乗って戦う戦士であり馬を飼う者（*II.* 3.401; 18.291; 10.431.）

マイオニア人は質実であり、象牙で出来た馬の頬当てが王によって蔵に仕舞い込まれ他の騎士たちによって妬みを買っていた（*II.* 4.141ff.）

考古学的にも前8世紀末以前には物質的に繁栄していたとか住民の生活が外国からの輸入品に囲まれていたというような状況ではなかった

（Hanfmann, 151ff.）

多くの人口を誇り好戦的で、首長たちの下に組織化されそれぞれの農村に集中

（Roebuck, 52.）

リュディアをサルデイスという一大中心地を伴った農民と牧人の村落からなる地方（Roebuck, 52.）

リュディアの国土についてのギリシア人の印象：アリストゴラス

「リュディア人の住む土地は豊沃で、銀の産出額は他に類がありません」

（Hdt. 5.49.5.）

ギュゲスについての話

プラトンの『国家』の伝える話

（Plat. *Res Publica*, 359d- 360b. cf. Cicero, *De officiis* 3. 9.）

ギュゲス（リュディア人の始祖と記されるだけで、ギュゲスという名前は出てこない）は王に仕える王の羊飼いであった。

彼は地震によって開いた穴の中に入って行く。穴の中にはいろいろな不思議なものがあり、それに混じって銅の馬があった。その馬には小さな扉があり、その扉から中を覗いて見ると、大きな死体が収められていた。ギュゲスはその死体の指から黄金の指輪を抜き取り、自分の指に嵌める。指輪には姿を隠すという不思議な力があつた。その力を知つたギュゲスは姿を隠して王宮に入り込み、まんまと王妃と通じて王を殺害するのに成功し、リュディアの王位を手に入れたのである。

ヘロドトスの伝える話 (Hdt. 1. 8ff.; J. V. A. Fine, *The Ancient Greeks: A Critical History*, (Cambridge, Massachusetts and London, 1983) 246)

紀元前後頃のダマスクスのニコラオス (Nicolaos Damasc. *FGH* 90 F47.)

アルキロコス：ギュゲスの富

ヘロドトスによって伝えられるクロイソスの財宝と気前の良さ

東方の君主に対するギリシア人の心像＝豪奢な生活と傲慢さを示す

リュディア人にとってのギリシア人

隣接しあうリュディア人貴族とギリシア人（イオニア人）貴族の所領対立と和合
特別なバルバロイ

両者の交流の起源

青銅器時代

サルディスからミケーネ土器の出土
後期ヘラディック IIIC~PG の土器輸入
彩色ジオメトリック土器（前 900 年ころ）

ギリシアの PG の影響

(J. P. Pedley, *Sardis in the age of Croesus*, (Norman 1999 paper.ed.) 28-30.)

アジア（ローマ時代）=アッシュワ（ヒッタイト文書）

(O. R. Gurney, *The Hittites*, (Harmondsworth 1981) 58.)

トウトウハリヤシュ 4 世の時代(前 1250-20 年)

マッドウワッタシュに小アジアの西部に領土を付与 (Gurney, 27-28.)

アルヌワンダシュの時代

マッドウワッタシュはアッタリッシヤシュと手を組んでヒッタイトの領土を侵略 (Gurney, 28.)

リュディア人の名前

ピードリーの説 (Pedley, 30)

リュディア人が前 1200 年頃のカタストローフのときにこの地に移住してきた民族ではなく、青銅器時代には既にこの地に住み、トウトウハリヤシュ 4 世の手によってサルディスの町が破壊されたとしても、リュディア人自身は鉄器時代に入るまで変わることなくこの地に住み続けた

リュディア人のギリシア化に関する問題

リュディア人はギリシア人の造形芸術の才能を評価したが、ギリシア人の生活様式や言語に影響を受けなかった

リュディア王がギリシア人の工人を雇用

キオスのグラウコス

アリユアッテスの注文に応じて鉄の溶接の技術を使って混酒器の台製作
(Hdt. 1. 25.)

サモスのテオドロス

クロイソスの注文に応じて巨大な黄金製の混酒器を製作 (Hdt. 1. 51.)

サルディスにギリシア人の居住

商人、建築家や彫刻家 (Pedley, 1999, 100.) ,陶工 (Pedley, 1999, 112-113.) など

リュディア人の注文に応じて建築や彫刻の製作

ギリシア語の使用の限定

言葉のギリシア語化は前 3 世紀の終わり (Pedley, 1999, 108.)

象牙細工や金細工 (Pedley, 1999, 108f.)

リュディア人の工房

クレタ島やエフェソスなどギリシア諸都市に輸出

男性の耳輪がリュディア人の風俗 (Pedley, 1999, 112.)

リュディア人の庶民が使用する土器へのギリシア陶器の影響

あまり強い影響を及ぼしてはならず、幾何学様式の伝統が残る (Pedley, 1999, 113.)

リュディア人の評価したもの

詩のような文学でなく、視覚に訴える造形芸術 (Pedley, 1999, 113)

オリエントで発見されるギリシアの土器はそれを購入し使用した人々のギリシア化を証明しているのか

考古学者たちは否定的

オリエントはギリシアの芸術にあまり関心を持たなかった (Braun, 5.)

エトルリア人とは違って、リュディア人貴族は容易に手に入る良質のギリシア土器には関心を持たなかった (Roebuck, 57- 58.)

サルディスからの出土品 (ローバックによる : 58)

コリントスの土器 : 前 6 世紀の初頭に現れる

アリュバロス 3 個、オルペー 1 個、その他の土器の破片数個

シェーファーらの報告 (J. S. Schaeffer, N. H. Ramage and C. H. Greenewalt, Jr., *The Corinthian, Attic, and Laconian Pottery from Sardis*, Archaeological Exploration of Sardis Monograph 10 (Cambridge, Mass. 1997))

コリントス 148 点

アッティカ 31 点

ラコニア 15 点

傭兵への関心

ラッサム円筒碑文 (J. D. Pedley, *ALSS*. 82; D. D. Luckenbill, *Ancient records of Assyria and Babylonia II* (Chicago 1927) 297-298.) :

「ルッディ(リュディア)」の王「ググ(ギュゲス)」が使節の派遣を停止し、アッシリアから反乱を起こしたエジプト王「トゥシャミルキ(プサンメティコス)」を支援した事に言及し、アッシュールバニパルは「彼の身体が彼の敵の前に投げ出されますように、[彼の敵が]その手足を持ち去りますように」とアッシュル神とイシュタル神に祈っている。アッシュールバニパルははっきりとギュゲスが「余の主権の頸木をかなぐり捨てた、エジプトの王、トゥシャミルキの下に彼の兵を送った」

ディオドロスの言及 (Diod. 1. 66. 12.) :

プサンメティコスがイオニア人とカリア人を擁してエジプトの支配権を獲得
カンビュセスのエジプト侵攻に伴うペルシオンの戦い (Hdt. 3. 11.) :

ギリシア人とカリア人から成る傭兵部隊と交戦

リュディアのエジプトとの同盟関係

エジプトをリュディアに繋ぎ止めておく重要な手段の一つ

＝ギリシア人やカリア人傭兵の提供

ダマスクスのニコラオス (Nicolaos Damasc. *FGH.90 F65.*) :

アドラミッティオンの総督をしていたクロイソスがエフェソスに赴いてパンパイ
スから金を借り、傭兵を集める

ペルシア帝国への展望

リュディアとギリシア人の関係はメルムナス朝の王国を相続したアケメネス朝ペルシ
アに引き継がれる

(J. M. Balcer, "The Greeks and the Persians: the process of acculturation", *Hist.* 32 (1983) 257-267; F. Bourriot, "L'empire achéménide et les rapports entre Grecs et Perses dans la littérature grecque du V^e siècle", *L'Information Historique* 43 (1981) 21-30; A. R. Burn, *Persia and the Greeks* (Stanford 1984^{2nd.ed.}); P. Green, *The Greco-Persian Wars* (Berkeley, Los Angeles 1996); D. Konstan, "Persians, Greeks and empire", *Arethusa* 20 (1987) 59-73; M. Vickers, "Interactions between Greeks and Persians", *Achaemenid history* 4 (1986) 253-262; G. Walser, "Zum griechisch-persischen Verhältnis vor dem Hellenismus", *HZ.220* (1975) 529-542.)

サルディスの総督府やスーサの宮廷を訪問するギリシア人

亡命者、医者、工人、傭兵、商人、旅行者として

ペルシアとギリシア諸都市との関係が途絶えず

ヘレネスとバルバロイという二項対立的なイデオロギーにギリシア人の全てが律せられていたわけではない (Adkins, (1972) 59)

メルムナス朝時代のギリシア人は後世のギリシア人の異民族観を代表する文化的優越感と差別意識をもってリュディアと接する事はなかった